

事業報告書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進等の事業を行った。

(1) 調査研究事業

阿寒川水系の水と森林に関する調査（平成16年度からの継続調査）

財団が管理する森林に関わる阿寒川水系における降雨量、河川の水位、河川水の土砂濃度等を調査した。

事業費 593,426円(予算額 650,000円)

(調査：山形大学農学部 菊池俊一准教授)

事業概要

現地調査

日程 平成26年 6月10、11日 河川水自動採取装置2箇所設置

(チクショベツ、キネタンベツ川調査区)

平成26年 6月～11月 水の採取等の現地調査実施

(2) 人材育成事業

1) 一步園自然セミナー開催事業

河川・海洋・森林に至るまで様々なフィールドでの自然環境の悪化が叫ばれている現代社会において、アイヌ民族の持つ世界観（文化）は自然現象、動物、植物や人間生活に関わるすべての事象に神の存在を認め、崇める姿勢は、これからの私達の自然との付き合い方の大きなヒントといえる。

阿寒湖温泉街に隣接し、北海道の原風景を色濃く保つ「光の森」を眺めながら、その周辺の自然環境（樹木・山野草等）についてアイヌ文化の視点から触れるセミナー「生命を紡ぎ、育む森林をアイヌ文化と植物を通して感じよう！・・・光の森フォレスト・ウォッチング」を実施した。

事業費

201,554円（予算額 440,000円）

事業概要

日時 平成26年7月27日（日）

現地観察（第一部） 9時30分～12時00分

室内講演（第二部） 12時50分～14時50分

会場 現地観察（第一部） 光の森（3092林班）周辺森林

室内講演（第二部） 阿寒湖まりむ館／トーラサンペ・ユーカラ

参加者 30名

講師 本田 優子（札幌大学副学長／アイヌ文化）

高嶋八千代（植物研究家）

2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の保全などに関する知識の習得を促進するため、前年度に引き続き、釧路市前田奨学金に対して助成を行った。

事業費

1,000,000円(予算額 1,000,000円)

(3) 普及啓発事業

1) 観察会開催事業

(ア) ネイチャーウォッチング

アメマスは北海道と東北を中心に棲息しているが、道内の各河川、湖沼における自然環境の悪化により生息数が減少している。アメマスは一般には海に降りる性質を持つが、阿寒湖のアメマスは湖沼型であるにも関わらず、他の棲息地のものより模様が美しいこと、魚体が大きいことや、安定した自然繁殖をしていることの貴重性が注目されている。この阿寒湖の水生生物の豊かさの象徴の一つであるアメマスを通し、湖と川のつながり、そして、森林についての必要性や生態系について考える実体験型自然観察会「森、川、そして湖・・・つながれ生命のリレー！アメマス遡上ウォッチング」を開催した。

事業費

248,426円(予算額 410,000円)

事業概要

日時 平成26年10月11日(土) 午前10時00分～午後3時00分

室内講義 阿寒湖温泉まりむ館

現地観察 阿寒湖チュウルイ川河口周辺

参 加 者 42名（釧路市全域公募の小学3年生～小学6年生）

講 師 野本 和宏氏（釧路市博物館学芸員／環境科学博士）

（イ）自然観察支援事業

当財団管理山林内において、北海道教育大学附属釧路小学校「自然環境教育プロジェクト」と連携し、同校小学2年～6年生を対象に、森林、河川、野生動植物、水生生物、昆虫等を題材に自然体験プログラム（延べ13回、参加者483名）並びに、津別町教育委員会生涯学習事業「アソビバつべつ！！」と連携した野生生物（エゾサンショウウオ、アメマス、エゾシカ）と森林についてのプログラムを（延べ3回、参加者16名）実施した。

事 業 費 327,959円（予算額 375,000円）

2）前田一步園財団自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する調査研究等の諸活動に対して助成を行った。また、札幌市において、平成25年度の助成対象者の事業についての報告会を（公財）秋山記念生命科学振興財団と合同で開催した。

事 業 費 4,902,900円（予算額 6,186,000円）

事 業 概 要

○平成26年度被助成者

①札幌市立駒岡小学校 緑の少年団

助成内容：こまおかの森 げんきづくり事業、助成額：850千円（札幌市）

②北海道林業技士会

助成内容：「野幌自然休養林の植物の話（森へのいざない）」

刊行事業、助成額： 5 3 0 千円（札幌市）

③北海道爬虫両生類研究会

助成内容： 阿寒湖周辺域に生息する両棲爬虫類

及び水生生物の生息確認調査、助成額： 6 7 3 千円（札幌市）

④タンチョウ コミュニティ

助成内容： タンチョウのえさづくりプロジェクト、助成額： 5 0 0 千円（鶴居村）

⑤手稲さと川探検隊

助成内容： 手稲の川と林の生きものガイドブック作成、助成額： 6 0 0 千円（札幌市）

⑥NPO法人 NATURAS

助成内容： 無人島の冒険☆エゾシカ探検隊、助成額： 2 9 7 千円（函館市）

⑦北海道田園生態系保全機構

助成内容： 春と秋の自然観察会及びたんぼの学校、助成額： 3 2 0 千円（札幌市）

※ 助成総額 3, 7 7 0, 0 0 0 円

○審査経過

平成 2 6 年 1 月 1 7 日 募集広報

平成 2 6 年 4 月 1 8 日 審査委員会開催（応募件数：道内外からの団体・個人より計 1 7 件）

- 審査委員 松江 昭夫 氏（委員長）
 鮫島 惇一郎氏（自然環境研究室主宰）
 阿部 永 氏（元北海道大学農学部教授）
 徳丸 久衛 氏（環境省北海道地方環境事務所長）
 白鳥 浩二 氏（北海道環境生活部環境局生物多様性保全課長）

3）森林利活用推進事業

これまでも地域住民や阿寒湖を訪れる多くの観光客に森林との触れ合いを深めてもらうための取り組みを進めてきたが、財団創立30周年を契機に取り組む「森の学校」事業を本格的にスタートさせた。

森の学校事業は、「教育の森」（森林を教育的に活用する事業）、「レクリエーション・健康の森」（森林をレクリエーションや健康増進に活用する事業）、「研究の森」（森林を大学や学術機関等の研究活動に活用する事業）の3事業から構成される事業である。本年度は、森の学校事業として次の内容を行った。

①今後の阿寒湖畔の森林を教育やレクリエーションに活用するための調査

平成26年5月26（月）～27日（火）、平成26年10月5日（日）

②釧路市教育委員会への研修事業

平成26年8月6日（水）午前10時00分～午後4時00分

③地元教育機関（マリモ幼稚園、阿寒湖小学校、阿寒湖中学校）向け研修事業の実施

平成26年8月8日（金）午前10時00分～午後4時00分

④地元児童向け研修事業の実施

平成26年10月4日（土）午前 9時00分～午後3時30分

⑤「一歩園森の案内人」（ガイド）の養成

平成26年11月26（水）～27日（木）、平成27年3月4（水）～5日（木）

⑥「研究の森」事業の周知活動と需要調査等

東京農業大学に説明を実施した。平成27年3月18日（水）

また、事業を円滑に実施するために、有識者等で構成する推進委員会を立ち上げ、事業の進め方や、実施結果の振り返り、次年度に向けた事業内容の検討等を行った。

事業費

3,410,608円（予算額 4,300,000円）

（4）顕彰事業

前田一歩園賞事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体・個人の優れた業績をたたえて前田一歩園賞及び副賞を贈呈するとともに、未来を担う子供（小中学生）たちの自然環境の保全活動への取組みの励みとなるよう一歩園ジュニア自然環境賞及び活動資金を贈呈した。

事業費

1,693,852円（予算額 2,220,000円）

事業概要

○前田一歩園賞顕彰者

・キトウシ湿原・登別（登別市） 登別市推薦

業績：キトウシ湿原において市民を対象とした水芭蕉やホタルなどの観察会のほか、地域の小学校と連携し、同会会員の指導による湿原に繁茂する外来植物の駆除作業や水生生物の観察、冬季の湿原観察などの活動を実践し、登別市の自然環境教育の推進にも尽力。

・中村 春雄（江別市） 江別市推薦

業績：水路協等に湿原の名残りであったノハナショウブを後世に残すため、その周辺の手つかずの約60aの土地を借り受け、ノハナショウブの保全と増殖活動を地道に取り組む傍ら、地域の子供たちを対象にした自然環境思想の普及啓発にも尽力。

○一步園ジュニア自然環境賞

・緑の少年団 なかしべつ冒険クラブ（中標津町） 中標津町教育委員会推薦

活動：異年齢の子供たちが自然の中で活動することで「助け合い」「思いやる心」「発見する喜び」の体感を軸に、中標津町の植樹祭や林業体験の傍ら、植物観察により樹木や野草の貴重種、外来種なども学ぶほか、野鳥観察では、野鳥研究家の指導のもと標識調査にも協力。

○審査経過

平成26年 5月 9日 候補者推薦依頼（環境省、北海道、市町村、市町村教育委員会）

平成26年 9月 4日 審査委員会開催

（推薦件数：前田一步園賞7件、一步園ジュニア自然環境賞1件）

平成26年11月16日 表彰式（出席者：34名、当財団役職員含む。会場：ホテルポールスター札幌）

○審査委員 松江 昭夫 氏（委員長）
 鮫島 惇一郎氏（自然環境研究室主宰）
 阿部 永 氏（元北海道大学農学部教授）
 徳丸 久衛 氏（環境省北海道地方環境事務所長）
 白鳥 浩二 氏（北海道環境生活部環境局生物多様性保全課長）

(5) 地域保全事業

1) 山火事予消防活動助成事業

阿寒湖畔地区の森林を火災から守るため、森林愛護思想の普及啓発と山火事予消防活動への支援、装備の充実に必要な用具に対して助成を行った。

事業費（助成） 300,000円（予算額 300,000円）
（助成先：阿寒湖畔森林愛護組合）

2) エコミュージアムセンター活動助成事業

阿寒湖畔エコミュージアムセンターの活動に対して助成を行った。

事業費（助成） 800,000円（予算額 800,000円）
（助成先：阿寒湖畔エコミュージアムセンター運営推進協議会）

(6) 前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行った。

事業費

600,000円(予算額 900,000円)

2. 森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、平成26年度においても引き続き保全管理・人工林保育・天然生林改良等を実施した。

(1) 保全管理事業

1) 巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止、自然保護思想の普及等を図るため、林内に巡視人や、林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全及び活用にかかる北海道の「公有財産管理委託業務」を受託し、当該土地及び立木の管理に関する業務を実施した。

事業費

2,369,000円(予算額 2,450,000円)

(請負等先：阿寒湖畔森林愛護組合、(有)前田一步園林業)

2) エゾシカ食害対策事業

北海道の発表によると平成25年度のエゾシカ被害総額は55億6300万円(前年度比7億4100万円減)と減

少に転じてはいるが、エゾシカ問題は依然、深刻かつ予断を許さない状況にある。

このような中であって、財団森林もこれまでの囲いワナによる捕獲の成果から財団森林内に集まるエゾシカの数は一減少傾向にある。しかし、本年2月の荒天時に除雪作業のため1週間給餌ができない状態が続いた際、一部樹皮食いの被害が発生したことが示すように、依然食害の危険にさらされている状況が継続している。

平成26年度も、前年度同様「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった森林被害防止対策を継続して実施した。

平成26年度事業では、ビートパルプ1,138個(68,280kg)の給餌ならびに囲いワナによる152頭の捕獲を実施した。

また、これらの対策とあわせてエゾシカの生息状況や給餌事業の効果などについて大学と連携して調査を実施した。

事業費 11,672,100円(予算額 11,860,000円)

(請負等先：(有)前田一步園林業)

事業概要

- ・ 囲いワナ撤去事業

平成25年度に設置した3箇所の囲いワナの撤去

- ・ 給餌事業

給餌場25箇所の給餌

(平成26年4月1日から4月12日まで、平成26年12月25日から平成27年3月31日まで実施)

餌の使用量 ビートパルプ 1,138個(1個60kg、給餌総量68,280kg)

- ・ 囲いワナによる捕獲事業

罠いワナ 3箇所での捕獲

(平成26年4月1日～4月14日まで、平成27年2月2日～3月27日まで実施)

捕獲回数 36回

捕獲頭數 152頭

3) 林道事業

既設の林道・作業道の補修・改良（破損土管入れ替え4箇所、止水版設置1箇所、砂利敷1路線）を実施した。

事業費 942,000円(予算額 1,000,000円)

(請負等先：(有)前田一步園林業)

4) 調査事業

林分構成の整備を図るため平成２７年度間伐実施予定区域である３０９３、３０９１、３０９０林班の天然生林（調査対象面積１７３ha）、および３０８０、３０８２林班の人工林（調査対象面積４３ha）において現況調査を行った。調査の結果、平成２７年度の間伐材出材量を１、８６０ｍ³（内訳については表２－１に掲載）と計画した。

また、人工林の資源量調査（平成26年度から28年度までの3カ年計画）を3082、3083林班の人工林（調査対象面積59ha）を行った。

事業費 1,643,622円(予算額 1,870,000円)

(請負等先：(有)前田一步園林業)

調査作業実施林小班（間伐実施予定区） 3081-2、3082-4、3090-3・4・6・7・13、3091-1・2・4・5、3093-1・3・4

調查作業実施林小班（人工林資源調査） 3082-2、3083-2・3

(表 2 - 1) 平成 2 7 年度間伐材出材計画内訳

間伐の内容	出材量計画 (m³)
人工林間伐 針葉樹	220
人工林間伐 広葉樹	20
天然林間伐 針葉樹	1, 410
天然林間伐 広葉樹	210
合 計	1, 860

5) 危険木等処理

危険木・支障木等の処理（伐採・移動等）を実施した。

事業費 1 7 3, 0 0 0 円（予算額 5 0 0, 0 0 0 円）

（請負先：(有)前田一步園林業）

(2) 人工林保育事業

1) 植樹祭事業

植樹祭（5 0 0 本植栽）に係る「苗木の購入」、「地拵え」、「下刈」を実施した。

事業費 3 6 4, 0 0 0 円（予算額 4 0 0, 0 0 0 円）

（請負先：(有)前田一步園林業）

2) 人工林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成 2 2 年、2 3 年度に植栽した人工林 2. 5 ha の下刈作業を実施した。

事業費 135,000円 (予算額 130,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 3082-8, 9、3083-20 の各林小班

3) 除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林62.62haの除間伐、作業路の開設(860m)を実施した。

事業費 17,829,460円 (予算額18,590,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 除伐 : 3114-4, 6, 8、3115-20 の各林小班 (12.13ha)

間伐 : 3081-4、3083-3 の各林小班 (50.49ha)

(3) 天然生林改良事業

1) 誘導造林事業

天然林の林分構成の充実を図るため、クロエゾマツの苗木(植栽本数10,000本、植栽面積9.90ha)の植栽を実施した。

事業費 5,061,000円 (予算額 5,120,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 3095-2・6 の各林小班

2) 誘導造林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成21年～25年度に植栽した誘導造林地の70.02haの下刈作業を実施した。

事業費 2,309,000円 (予算額 2,200,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 3082-10、3089-20、3096-26、3104-3・10・11、3105-6・7、3106-6、3107-4・5、3108-4、3112-4の各林小班

3) 天然生林間伐事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、過熟木、衰弱木、傷害木及びエゾシカによる食害木等141.42haの整理伐を実施した。

事業費 39,193,068円 (予算額 38,230,000円)

(請負等先：(有)前田一步園林業、釧高運輸(株))

作業実施林小班 3094-1・2、3094-4・10・11・12、3095-4・5・13・15、3096-2,27の各林小班

(4) 業務費

森林保全事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」を支出した。

事業費 1,066,116円 (予算額 1,220,000円)

(5) その他業務

視察等の受入れ

教育機関、行政機関、各種団体からの視察要望に対応した。受入件数は52件、人数は475人であった。

おもな視察受け入れ内容

26年	4月24日	1日	エゾシカ対策〈朝日新聞社網走支局〉（1名）
26年	5月4日	1日	天然林施業〈釧路市〉（4名）
26年	6月3日	1日	エゾシカ対策〈高知県、四国ジビエ連携〉（2名）
26年	6月9日	1日	エゾシカ対策〈林野庁〉（4名）
26年	7月3日	1日	天然林施業〈日本製紙〉（3名）
26年	7月9日	1日	エゾシカ対策〈北海道環境生活部〉（3名）
26年	7月15日	1日	天然林施業〈筑波大学〉（2名）
26年	7月17日	1日	天然林施業〈東京農業大学〉（16名）
26年	7月22日	1日	天然林施業〈秋田市〉（3名）
26年	7月30日	1日	天然林施業〈釧路工業技術センター〉（1名）
26年	8月4日	1日	エゾシカ対策〈民主党議員〉（5名）
26年	8月5日		
	～7日	3日	天然林施業〈つばさプロジェクト〉（15名）
26年	8月7日	1日	エゾシカ対策〈日鐵住金建材〉（3名）
26年	8月27日	1日	天然林施業〈鶴雅グループ〉（18名）

26年	8月28日	1日	エゾシカ対策〈城西国際大学〉（5名）
26年	8月29日	1日	天然林施業〈釧路市立阿寒小学校〉（20名）
26年	8月29日	1日	エゾシカ対策〈釧路市産業推進室〉（2名）
26年	9月9日	1日	天然林施業〈東洋大学〉（20名）
26年	9月10日	1日	天然林施業〈空知地区森林組合振興会〉（20名）
26年	9月10日	1日	天然林施業〈東京農業大学〉（4名）
26年	9月11日	1日	天然林施業〈JICA「ブルキナファソ他」〉（15名）
26年	9月20日	1日	天然林施業〈釧路市立文化振興財団〉（35名）
26年	9月29日	1日	エゾシカ対策〈釧路市阿寒湖小学校〉（20名）
26年	10月1日	1日	天然林施業〈釧路市公立幼稚園研修会〉（40名）
26年	10月15日	1日	天然林施業〈釧路工業技術センター〉（1名）
26年	10月16日	1日	エゾシカ対策〈釧路市農林課〉（30名）
26年	10月22日	1日	エゾシカ対策〈釧路市立阿寒湖小学校〉（30名）
26年	10月24日	1日	天然林施業〈東京農業大学網走校〉（5名）
26年	10月26日	1日	天然林施業〈NPO新山川草木を育てる集い〉（10名）
26年	10月29日	1日	天然林施業〈北海道教育大学釧路校〉（5名）
26年	11月10日	1日	天然林施業〈北海道林業試験場〉（15名）
26年	11月21日	1日	天然林施業〈JICA「マレーシア」〉（16名）
26年	11月24日	1日	天然林施業〈北海道教育大学釧路校〉（8名）
26年	12月5日	1日	エゾシカ対策〈日鐵住金建材〉（2名）

26年12月6日	1日	天然林施業〈北海道教育大学釧路校〉（7名）
26年12月11日	1日	天然林施業〈環境省〉（8名）
27年1月15日	1日	エゾシカ対策〈東京農業大学〉（6名）
27年1月28日	1日	天然林施業〈釧路市立阿寒湖小学校教員研修〉（9名）
27年2月3日	1日	エゾシカ対策〈城西国際大学〉（5名）
27年2月4日	1日	天然林施業〈JICA「コスタリカ他」〉（8名）
27年2月6日	1日	エゾシカ対策〈北海道環境生活部エゾシカ対策課〉（3名）
27年2月12日	1日	天然林施業〈自然公園財団阿寒湖支部〉（4名）
27年2月19日	1日	エゾシカ対策〈日鐵住金建材〉（2名）
27年2月19日 ～20日	2日	天然林施業〈北海道造林協会〉（6名）
27年2月20日	1日	天然林施業〈東京農大グリーンアカデミー〉（10名）
27年2月26日	1日	エゾシカ対策〈道北名寄農業協同組合〉（3名）
27年3月11日	1日	天然林施業〈阿寒湖小学校5年生、出前授業〉（9名）
27年3月16日	1日	エゾシカ対策 天然林施業〈エトブン社「東京都」〉（5名）
27年3月18日 ～19日	2日	エゾシカ対策〈環境省、エンビジョン環境事務所〉（5名）
27年3月20日	1日	エゾシカ対策〈北海道生活環境部〉（2名）

3. 土地貸付事業

基本財産である土地（山林、宅地等）は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定されている。さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されているなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り地域の振興に資するため、前年度に引き続き土地の貸付を行った。

（1）土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守・管理及び景観の向上を目的に、空地の緑化事業やベンチなどの製作と設置を行った。

事業費

365,000円（予算額 365,000円）

（2）土地貸付

前年度に引き続き、表3－1のとおり土地の貸付を行った。

なお、有償貸付の契約件数減については、個人契約3件の返地（敷地面積合計 635 m²）によるものである。

（表3－1） 土地貸付等状況一覧

契約区分	平成26年3月現在		平成27年3月現在		備 考
	契約件数	貸付等面積	契約件数	貸付等面積	
有償契約	210件	520,338 m ²	207件	519,703 m ²	電力会社送電線敷地41haを含む。
無償契約	19件	346,115 m ²	19件	346,115 m ²	北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会他
計	229件	866,453 m ²	226件	865,818 m ²	

4. 温泉事業

当財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。このため、源泉及び温泉供給設備の拡充と安定供給体制をより一層強化するため、施設整備の計画的な推進と、温泉需要者との情報交換を行う事業等を本年度も継続して行った。

(1) 前田一步園財団温泉推進連絡会議

温泉事業をより一層円滑に推進するため、地域の関係者と情報交換を行った。

事業費 1, 7 9 2 円 (予算額 3 0, 0 0 0 円)

事業概要 推進連絡会議の開催

実施日 平成26年 9月 1日 情報交換 (財団会議室)

(2) 温泉供給施設の整備

1) 揚湯ポンプの拡充事業

各源泉に共通する予備の温泉ポンプ (7.5 kw×2台) 及び温泉揚湯管 (4 m/本) ×8本を購入し、温泉の安定供給の確保に努めた。

事業費 3, 2 6 0, 0 0 0 円 (予算額 3, 3 0 0, 0 0 0 円)

2) 温泉計量器の交換整備事業

温泉計量器 (流量計) を交換整備し、温泉供給量を把握することにより、温泉の安定供給と資源の節約に努めた。

事業費

1,056,000円（予算額 1,080,000円）

3) 源泉ピット（井戸元）整備事業

掘削時施工したピット（コンクリート升）等が経年劣化により、破損等が見られるため各源泉ピットの整備を行い、源泉の保護に努めた。

事業費

565,000円（予算額 600,000円）

(3) 源泉及び温泉供給設備の管理

平成27年3月現在の当財団所有源泉数は前年度から増減なく15本（内、稼働中12本、非常時用予備1本、観測井2本）である。前年度に引き続き、これら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努めた。

(4) 温泉供給

前年度に引き続き、表4-1のとおり温泉供給を行った。

（表4-1）温泉供給状況一覧

供給区分	平成26年3月現在		平成27年3月現在		備 考
	契約件数	供給本数	契約件数	供給本数	
有償供給	67 件	312 本	66 件	311 本	
無償供給	3 件	4 本	3 件	4 本	北海道（阿寒湖畔診療所）等
自家用		3 本		3 本	暖房等財団諸施設
計	70 件	319 本	69 件	318 本	

5. その他

(1) ホームページ新規作成事業

平成13年度に職員が作成したホームページは、その後の情報（ファイル）量の増加等によって管理が複雑化したことから、閲覧しやすく且つ管理のしやすいホームページにするため専門業者に依頼しリニューアルを行った。

事業費

450,000円（予算額 500,000円）

(2) 創立30周年記念事業報告書作成事業

創立30周年記念事業として実施した「一步園のこれからを語る夕べ」、記念講演会「森と生活」、「スウェーデンから学ぶアウトドア環境教育」の内容をまとめた報告書を作成した。

事業費

460,000円（予算額 250,000円）